

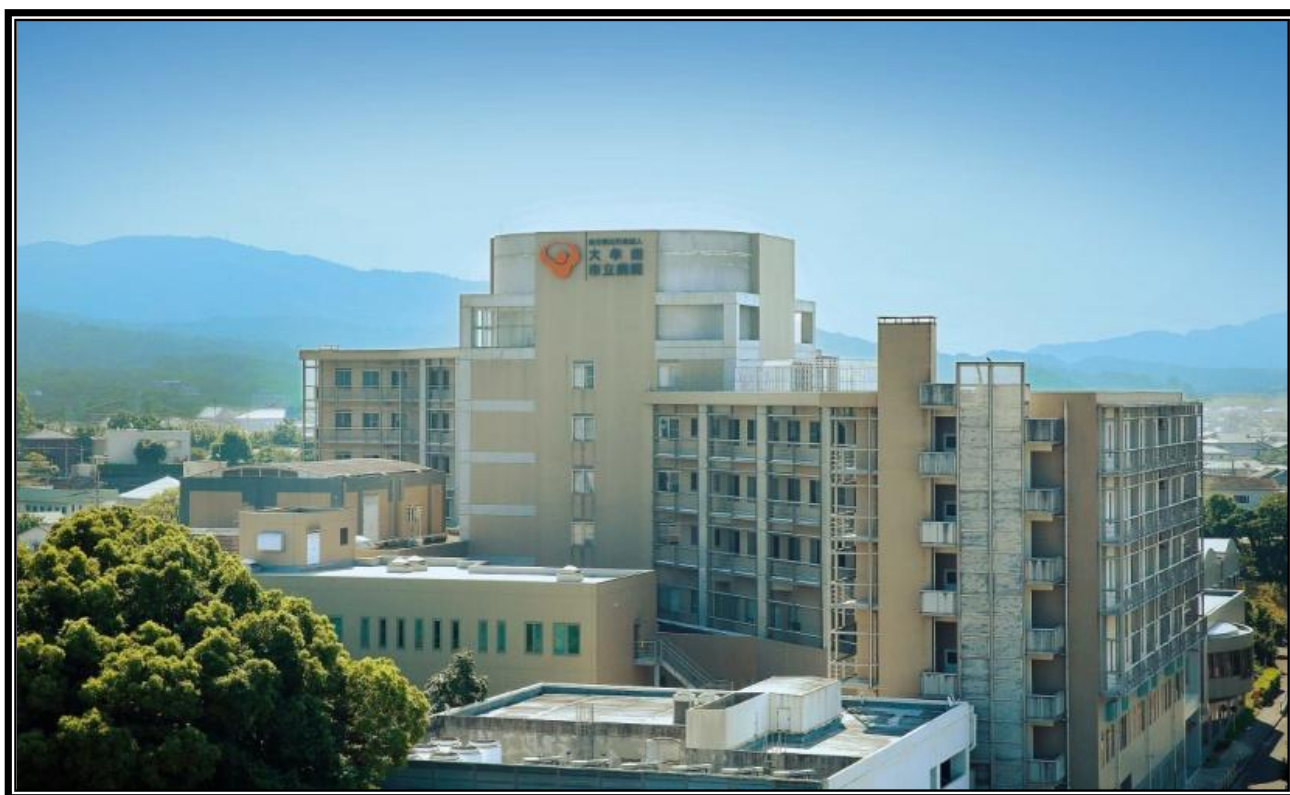


地方独立行政法人

大牟田市立病院

令和3年度採用

初期臨床研修医募集要項



目次

1. 臨床研修を始める皆さんに P1
2. 診療体制・実績 P2
3. 施設 P5
4. 沿革 P6
5. 地域医療への貢献 P7
6. 初期臨床研修について P9
7. 指導医からのメッセージ P13
8. 研修医の声 P14
9. 研修中の行事例 P20
10. 募集要項と処遇 P21
11. アクセス P22

1. 臨床研修を始める皆さんに



当院は、1985年に医師法第16条に基づく臨床研修病院として厚生大臣指定を受け、その後は、一貫して研修医～専門指導医のペアで、実地臨床研修を行ってきました。現在も当院医師の半数が専門科指導医資格を有しています。さらに現行の初期臨床研修制度に移行した後も卒後初期研修のほか、専門科入局～卒後5年目程までの若い医師が大勢勤務しています。このため異なる診療科間でも全く垣根が無く、常に幅広い研修が行えるのが当院の特徴と言えます。

医師にとって「病院」で初期研修を行う目的の一つは、色々な職種のスタッフとチームを組んで、あるいは協働して医療を行うというトレーニングにあります。他職種の専門分野を理解し、どういう援助が求められるか、そして協働した医療行為には互いのコミュニケーションが如何に重要か、学ぶことは数多くあります。プロは、プロによって、プロとして育てられるのが、最良の方法と言えます。

二つ目の研修目的は、経験と判断力を積み上げていくことです。経験と学習に裏付けられた判断力こそ、医療現場の即戦力となるものです。しかし、慌てる必要はありません。特に最初の2年間は、専門医師になるための助走期間ととらえてください。基本的な分野で研鑽を積み、基礎固めを行うことこそ、長い医師生活を送っていく上で最も重要なこととなります。そのためには、プライマリー疾患を多く経験すると同時に、単なる診断・治療ではなく、一つ一つの診療行為の持つ意味、すなわちリスクと効果を応用出来るようになることが重要です。

地域基幹研修病院には、基本的疾患の豊富な経験、良い指導医に巡り会うチャンス、プロとして育てられる厳しさ、そして何よりも研修医個人の向上心を持続させる教育的な包容力が備わっています。ぜひ、この体制を十分に活用して、初期の臨床研修先を選択ください。

地方独立行政法人大牟田市立病院
理事長・院長 野口 和典

2. 大牟田市立病院の診療体制・実績

高度で専門的な医療を提供する地域の急性期病院です。

特に、

☆地域がん診療連携拠点病院

☆災害拠点病院

☆地域医療支援病院

であり、地域のくらしを支えている病院です。

【病床数】 320床（一般病床）

（ 救急病棟20床、腎センター（透析）18床、
外来化学療法センター8床 ）

【診療体制】（令和2年4月1日 現在） 30診療科

内科、消化器内科、内視鏡内科、腫瘍内科、血液内科、内分泌・代謝内科、
循環器内科、腎臓内科、外科、消化器外科、腫瘍外科、呼吸器外科、
血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、脳・血管内科、麻酔科、
精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科

【救急体制】 24時間、365日体制です

当直体制：救急系、内科系、外科系、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、
看護師、小児科（週2回の地域輪番救急当直）※すべて専用当直室あり
拘束バックアップ：内科、外科、循環器内科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、小児科

【職員数】（令和2年4月1日 現在）

医師：63人（臨床研修医を含む） うち女性医師11人

初期臨床研修医：4人

後期臨床研修医（卒後3~5年目）：12人

（ 内科1人、消化器内科1人、内分泌・代謝内科1人、循環器内科2人、
脳神経外科1人、皮膚科1人、産婦人科2人、眼科2人、耳鼻咽喉科1人、

指導医（卒後7年目以上、指導医講習会受講済み）：34人

内科系5人、内分泌・代謝内科2人、循環器内科1人、腎臓内科2人、
外科系8人、整形外科2人、形成外科1人、脳神経外科3人、麻酔科1人、
小児科2人、皮膚科1人、泌尿器科1人、産婦人科1人、放射線診断科1人、
病理診断1人、救急科2人

看護職：288人

認定看護師：6人

〔救急、感染管理、集中ケア、皮膚・排泄ケア、緩和ケア〕

医療技術職：97人

事務職：56人

【業務実績】（令和元年度）

延べ外来患者数：年間125,424人（1日平均429.5人）

延べ入院患者数：年間96,429人（1日平均263.5人）

救急患者数：年間7,142人

救急車搬入：年間1,908件

年間手術件数：3,075件

その他検査等：内視鏡検査件数（上部下部）3,560件、消化管透視199件、
CT検査12,220件、MRI検査4,470件、DSA血管造影・治療257件、
放射線治療（リニアック）2,845件、病理組織検査4,076件、
細胞診3,556件

分娩件数：年間222件

平均在院日数：11.6日

紹介率：86.3%

健診センター：年間健診受診者2,971人、年間特定業務従事者健診受診者429人

【決算状況】 15年連続黒字決算継続中

| | | | |
|--------|---------------|--------|---------------|
| 平成17年度 | 4億5,621万円黒字決算 | 平成18年度 | 1億3,536万円黒字決算 |
| 平成19年度 | 1億9,100万円黒字決算 | 平成20年度 | 1億2,439万円黒字決算 |
| 平成21年度 | 2億5,676万円黒字決算 | 平成22年度 | 5億5,810万円黒字決算 |
| 平成23年度 | 3億2,804万円黒字決算 | 平成24年度 | 4億5,338万円黒字決算 |
| 平成25年度 | 2億0,499万円黒字決算 | 平成26年度 | 4億5,801万円黒字決算 |
| 平成27年度 | 4億9,370万円黒字決算 | 平成28年度 | 5億3,321万円黒字決算 |
| 平成29年度 | 3億9,141万円黒字決算 | 平成30年度 | 4億1,286万円黒字決算 |
| 令和元年度 | 3億9,070万円黒字決算 | | |

【施設認定など】

施設認定

- 保険医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院
- 厚労省外国医師等の臨床修練指定病院
- 救急告示病院
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 地域医療支援病院
- 厚労省臨床研修指定病院
- 災害拠点病院
- 開放型病院
- 久留米大学医学部教育関連病院

学会認定

- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本循環器学会循環器専門医研修施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本脳神経外科学会専門医研修施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- 日本臨床細胞学会施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本脈管学会認定研修関連施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本手外科学会研修施設
- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本形成外科学会教育関連施設
- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- 日本高血圧学会専門医認定施設
- 日本透析医学会教育関連施設
- 日本病理学会研修登録施設
- 日本腎臓学会認定教育施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設

その他

- 身体障害者福祉法指定医療機関
- 自立支援医療機関【更生医療・育成医療】
- 自立支援医療機関【精神通院医療】
- 助産施設指定医療機関

- 生活保護法指定医療機関
- 母体保護法指定医療機関
- 労災保険指定医療機関
- 原爆被爆者指定医療機関
- 国民健康保険診療取扱機関
- 社会保険各法指定医療機関
- 指定養育医療機関（未熟児養育医療）
- 結核指定医療機関
- 産科医療補償制度加入医療機関
- 肝疾患専門医療機関
- 指定難病医療機関
- 指定小児慢性特定疾病医療機関

3. 施設

地域基幹研修病院として、最新の医療設備・医療機器を備えています。

- 救急外来：平成28年3月に拡充し、充実した救急医療ができるようになりました。



- 内視鏡センター：消化管の他、肝・胆・膵疾患と幅広い診断・治療に対応しています。



- 放射線診断・治療機器（アンギオ、RI、CT）



- 院内保育所：少人数の手厚い保育で、勤務時間に応じて24時間利用可能です。



4. 沿革

| | |
|---------|--|
| 昭和12年 | 大牟田市診療所として開院 |
| 昭和25年 | 大牟田市立病院と改称 |
| 昭和54年 | 24時間365日の救急体制開始 |
| 昭和60年 | 臨床研修病院として厚生大臣指定 久留米大学関連研修病院として正式に臨床研修開始 |
| 昭和61年 | 自治体立優良病院として自治大臣表彰 |
| 昭和63年 | 外国医師等の臨床修練に係る病院として厚生大臣指定 |
| 平成 7年 | 現在地に総工費150億円で新築移転（400床） 大牟田市立総合病院と改称 |
| 平成11年 | 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定（初回） 災害拠点病院に指定 |
| 平成15年 | 「地域がん診療拠点病院」として厚労省指定 |
| 平成16年 | 初期臨床研修病院として全国マッチングでの臨床研修開始 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（2回目） 全科全領域の電子カルテシステム導入 400床を350床に減床（在院期間短縮にて） 代わりに、腎センター増床、外来化学療法センター、健診センター増設 消化器病センター設置、外科、麻酔科外来の移転増設 |
| 平成19年 | 院外処方箋発行に移行 |
| 平成20年 | 「地域がん診療連携拠点病院」として指定更新 急性期病院包括医療DPCに移行 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（3回目） |
| 平成22年4月 | 「地方独立行政法人大牟田市立病院」となる 一般病棟7:1看護体制開始 |
| 平成23年 | 電子カルテシステム更新 院内託児所開所 医学生・看護学生奨学金貸付金制度創設 |
| 平成24年 | 「地域医療支援病院」として福岡県承認 |
| 平成25年 | 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（4回目） |
| 平成27年 | 内視鏡センター設置 |
| 平成28年 | 救急外来拡充 |
| 平成29年 | 自治体立優良病院両協議会会長表彰受賞 |
| 平成30年 | 自治体立優良病院総務大臣表彰受賞 全国公立病院連盟会員病院表彰受賞 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（5回目） |

5. 地域医療への貢献

大牟田市立病院は、地域医療へ貢献するため、様々な活動を行っています。

災害拠点病院としてDMATを編成。熊本地震の際に出動しました。その他、JMATとして北部九州豪雨災害の際にも出動しました。



毎年、緩和ケア研修会を開催しています。

臨床病理カンファレンス（CPC）と臨床がんカンファレンス（CCC）も隔月で開催しています。



患者さん向けの健康教室として市民公開講座も開催されています。



第26回 市立病院主催
市民公開講座

日時：3月5日(土) 午後1時30分～

「あなたの足は大丈夫？」
～正しい歩行と靴選び～

講師 春日 麗 医師(当院形成外科部長)

今回の第26回市民公開講座は「あなたの足は大丈夫? ～正しい歩行と靴選び～」をテーマに、当院形成外科部長の春日 麗 医師が、これから春先になるところの正しい歩行や自分に合った靴選びなどについてわかりやすく説明します。東北部の足の健康を維持することが出来る最新で最新の最新情報「SRPP(皮膚再循環法)装置」のご紹介も併せて行います。講演場には質疑タイムもあり、どなたでも参加できますので、講演から帰ってこられたらぜひ、この機会に質問もさせていただきますか?

▼ ところ 大牟田市立病院内 2階 エレベーター横 大会議室
▼ 対象者 どなたでも結構です
▼ 受講料 無料
▼ 問合せ 地方独立行政法人 大牟田市立病院 経営企画課 (TEL53-1061)
ホームページアドレス: <http://www.ghp.omuta.fukuoka.jp>

地域の医療従事者を対象とした**救急蘇生講習会**では、他の医療機関の医療従事者にも研修を行っています。



平成30年6月21日（木）に東京で開催されました「全国自治体病院協議会定時総会」において、当院が「**平成30年度自治体立優良病院総務大臣表彰**」を受賞しました。

この「自治体立優良病院表彰制度」は、全国の自治体病院の経営の健全化への改善努力の成果や地域医療の確保への多大な貢献や取り組みを表彰するもので、「自治体立優良病院両協議会会長表彰」とその上位表彰となる「総務大臣表彰」の2つの賞がありますが、今回の受賞は昨年の「自治体立優良病院両協議会会長表彰」に続く受賞となりました。

受賞の理由としては、当院が地域において救急医療や高度・専門医療を提供している点や、他の医療機関との連携を推進している点が評価されるとともに、経営的にも長年に亘り黒字経営を継続できていることが評価され受賞に至りました。



6. 初期臨床研修について

【当院における初期臨床研修の特徴】

- 有明医療圏で最も多くの診療科を有する急性期病院であり、プライマリ・ケアを豊富に経験できること
- 地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院に認定されており、幅広い研修ができること
- 協力病院（久留米大学病院、米の山病院、筑後市立病院、荒尾市民病院）の初期臨床研修医も当院で研修を行っており情報交換ができること

【研修プログラム】プライマリ・ケアの基本的診療能力（態度・技能・知識）を習得します

1年次：

| 4 週 | 8 週 | 12 週 | 24 週 | | |
|-------------|----------------------------|---|----------------------|-------|------|
| | | | 12 週 | 8 週 | 4 週 |
| 救急 (麻酔科) | 麻酔科 ・週 1 日救急科 (並行研修) | 外科 ・後半 8 週は週 1 日救急科 (並行研修) ・週 0.5 日一般外科外来 | 内科 ・週 0.5 日一般内科外来 | 循環器内科 | 腎臓内科 |

※救急科研修は麻酔科 4 週 + 麻酔科研修中は週 1 日並行研修

2年次：

| 4 週 | 4 週 | 4 週 | 4 週 | 32 週 |
|----------------|---------------|-----------------|------|-------------------------|
| 地域医療 (共立病院) | 精神科 (三池病院) | 小児科 ・週 1 日外来 | 産婦人科 | 選択科 ・週 1 日救急科 (並行研修) |

※救急科研修は選択科研修中に週 1 日 並行研修

【主な院内カンファレンス・レクチャー】

担当医としてプレゼンテーションも行います。

- ① モーニングカンファレンス：週 1 回研修医を対象とした症例カンファレンス
研修医が実際に経験した症例を病歴と身体所見、初期検査を重視して、研修医および指導医が自由に質疑・応答を行う過程で、プライマリ・ケアの診療能力とプレゼンテーション能力向上を目指すカンファレンス。また、他の研修医の経験症例を共有することで将来の自己の实地診療に活かすことを目標とします。
- ② 臨床病理カンファレンス (CPC)：奇数月第 2 火曜日 19 時～
- ③ 臨床がんカンファレンス (CCC)：偶数月第 2 火曜日 19 時～
- ④ 院内ミニレクチャー：各診療科による研修医を対象としたミニレクチャー (年間計 22 回程度)

- ⑤ 大牟田消化器研究会：年 4 回
- ⑥ 大牟田神経アーベント：年 6 回
- ⑦ 大牟田呼吸器カンファレンス：年 4 回
- ⑧ その他：多くの診療科でカンファレンスが開催されています

【院内で資格および受講可能な研修】

- ICLS 研修：年数回実施しており、インストラクターの資格も取得可能
- 緩和ケア研修：初期臨床研修医の間に受講します
- 感染に関する研修：年 2 回以上
- 医療安全研修：年 2 回以上
- 医療倫理研修：年 2 回以上
- 病理解剖について：常勤の病理医の下で、病理解剖時には介助医として参加できます。

【その他】

- **病理解剖**：常勤病理医の下で、介助医として参加。
- **学会参加・発表、病歴要約など**：
院内外での発表を経験し、将来必要となる各種学会専門医取得に必要な病歴要約や学会発表、症例報告、論文作成をサポートします。学会・研究会への参加費用および旅費支給制度もあります。
- **新・専門医制度への対応**
2018 年度より開始された新・専門医制度に対して個々のキャリアプランに応じたサポートを行います。新・専門医制度における 19 の基本領域のうち、13 の基本領域において久留米大学病院および聖マリア病院の連携施設となっています。13 の基本領域では 3 年次から当院で専攻医としての研修も可能です。
- **災害医療への参加**
研修医も JMAT として 2017 年九州北部豪雨災害、2018 年西日本豪雨災害に参加しました。災害拠点病院としての活動に参加できます。
- **筑後地域メディカルラリーへの参加**
医師・看護師・救急救命士による医療チームを組み、事故や災害などの模擬現場において制限時間内にいかに迅速かつ的確に診断と治療を行うことができるかを競う救急技能コンテストへの参加も可能です。
- **チーム医療**
呼吸器チーム、感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどチーム医療も充実しており、より専門的な医療を習得できます。
- **学習環境・生活環境**
学習環境：
*机、インターネット用無線 LAN、棚は全員に完備しています。
*医療情報は院内図書室以外での閲覧以外に、院内 LAN 環境とインターネット環境を利用した電子書籍で多くの洋雑誌や教科書を閲覧できます。

生活環境：

- *更衣室・仮眠室も充実しています。
- *院内保育所を完備しており、結婚・妊娠・出産にも対応できる研修をサポートしています。
- *希望者は病院宿舎（無料駐車場あり）も利用できます。
- *夏季休暇、年次休暇、産休、育休などの休暇を利用して仕事以外の生活も充実できるようサポートしています。
- *大牟田は穏やかな気候と自然環境であり、美味しい食材も豊富です。

➤ 病院見学は随時実施しております。ご希望の際は下記までご連絡ください。

連絡先：0944-53-1061（人事課）

Email：somu@ghp.omuta.fukuoka.jp

➤ 医学生奨学金貸付制度もあります。詳細は下記までご連絡ください。

連絡先：0944-53-1061（人事課）

Email：somu@ghp.omuta.fukuoka.jp

当院で研修を修了した初期臨床研修医：平成16年度～令和元年度

- ◇ 当院プログラムでの2年間初期臨床研修医（基幹型研修医） 計30名
出身大学：久留米大学、鹿児島大学、九州大学、佐賀大学、産業医科大学
山口大学、熊本大学、帝京大学、東海大学、福岡大学
- ◇ 研修協力病院としての初期臨床研修医（協力型研修医） 計141名
久留米大学病院（久留米市）
米の山病院（大牟田市）
筑後市立病院（筑後市）
荒尾市民病院（荒尾市）

- 広々とした医局はインターネット用無線LANが完備され、研修医にも机と本棚が貸与されます。



●モーニングカンファレンス（毎週土曜開催）



●有明地区合同研修医カンファレンス（毎年秋開催）



7. 指導医（プログラム責任者）からのメッセージ

紫原 美和子(循環器内科部長)

【プログラム責任者】



当院は、福岡県最南端の大牟田市にある 320 床の急性期病院です。毎年、基幹型研修医として 2 名ずつ、協力型研修医として久留米大学病院、米の山病院、筑後市立病院、荒尾市民病院からも研修医を受け入れています。

質・数ともに豊富な症例を経験できる病院であり、病院全体は和気藹々とした雰囲気です。楽しく研修ができると思います。医局は総合医局となっていますので若手からベテランまでコミュニケーションが取りやすく多くの医師からアドバイスを受けることができるような環境です。また、チーム医療にも力を入れており、感染症、呼吸ケア、緩和ケア、栄養、褥創など多くのサポートチームがありますので、多職種と情報共有しながら高度で専門的な医療の現場で研修を受けることができます。2 年の初期臨床研修はあっという間と思いますが、プライマリ・ケアを中心とした当院の研修で日々成長でき、研修修了時にはより専門的な知識と手技を求めて次のステップに進めるとと思います。医師として第一歩の研修病院として当院での臨床研修を大いに歓迎しています。



「大蛇山まつり」（毎年 7 月開催）

8. 研修医の声

【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（平成30年）矢田 慶子

2年間の初期臨床研修の終わりが近づいている今、実感することは2年間はとても短い時間だったということです。初期臨床研修の最初、2週間のオリエンテーションを受けているときは無意味に緊張し、1日が過ぎていくのがとても遅いような気がしていました。しかし、オリエンテーションが終わり、各診療科での研修が始まると1日がとても短く感じるようになりました。分からないことが出てきたときや、経験したことのない手技をするとき、調べたり、人に尋ねたりしているうちに気がついたら数時間が経っていた、ということがよくありました。私個人の意見ですが、学生の実習と、臨床研修の大きな違いの一つは、自分で決断をする必要があるかないか、ということではないでしょうか。人一人を診察治療する上で決断しなければならないことは小さなことまで考えると無数にあります。もちろん初期臨床研修中は迷ったとき、分からないとき、指導医の先生方の判断を仰ぐことができます。特に研修を始めたばかりのときはありとあらゆることが分からず、些細なこともよく尋ねていました。幸いなことに、大牟田市立病院は総合医局のため、様々な診療科の先生、まだ研修していない診療科の先生でも大変相談しやすい環境でした。気さくな先生が多く、相談によく乗ってくださり、知識・経験が不足している状態での決断の後押しをしていただきました。



2年間の研修の中で特に印象深かったことは救急外来での救急車対応です。私の年度の研修プログラムでは研修医は毎週木曜日に救急科の先生と一緒に日中の救急車対応をしていました。患者様の重症度を判断したり、鑑別疾患を考えたり、しなければいけないことの優先順位を考えたりすることはまさに決断の連続でした。救急科の先生に指導していただきながら、患者様の診察にあたり、勉強不足、練習不足を反省することもあり、木曜日は2年間とても緊張する曜日であるとともに勉強になる曜日であり続けました。救急科の先生は2年間通して指導して下さるので、研修医の習熟度合いもよく分かって下さっていて、よく必要とされる基本的な診察法、手技、情報収集の仕方等、多くのことを救急車対応をしながら学ばせていただきました。その他の印象深いことをあげると医療はチームでおこなうもの、ということを特に高齢の患者様の診療に関わるこ

とで実感できたことです。高齢の方は複数の疾患を抱えていることが多く、疾患の治療に様々な診療科が関わるだけでなく、その生活環境を整えることも重要な要素になってきます。できるだけADLを落とさないように、回復できるようにリハビリを行い、薬剤の整理をし、退院後の生活を整えるために様々な職種が連携して動く必要があります。医師だけでは医療を行うことは不可能で、それぞれの分野の専門職種が連携し、お互いの責任を果たしていると強く感じました。各職種の方々に教えていただくことは数多くありました。相談できる人が多いことは心強いことです。4月からは精神科に進み、大牟田市立病院とは違う病院で勤務する予定ですが、チームの一員として働くことは間違いありません。2年間の研修中に学んだことを活かしつつ精一杯努力していきたいと思います。最後になりましたが、野口院長はじめ大牟田市立病院の皆様、関連病院・施設の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

【1年を振り返って】

初期臨床研修医（平成31年）小田原 健一
研修医生活を始めてほぼ1年経過しました。本当にあっという間の1年間でした。私は、地元が大牟田のため6年ぶりの大牟田生活となりましたがすごく充実した1年を過ごせたと思います。



大牟田市立病院では、まず、最初に様々な部署の新入職員を対象としたオリエンテーションが行われ、そこで基本的なことを習得しますが、他職種の方々とのグループワークを通じたコミュニケーションの機会は、人見知りの激しい私にとって非常に貴重な時間でした。他職種の同僚にも分からないことや他職種の業務内容なども気軽に聞くことができるようになり、非常に働きやすいと感じました。オリエンテーション後に本格的に臨床研修が始まりました。私の場合は、麻酔科・外科と外科系からローテーションが始まり、気管挿管や中心静脈穿刺、縫合といった、主に手技的なことを学びました。その後、内科系の科を研修し、病棟業務などを経験しました。この患者さんには何が必要かなど自分で考えることの難しさを感じましたが、困った時は指導医の先生方に優しく指導していただき日々学ばせていただいております。また、医局は全科共通の医局であり、現在ローテートしていない科の先生方にも話しかけていただいたり、気軽に相談できるのも大変働きやすいと感じました。さらに、

軽井沢での学会発表も経験させていただき、非常に緊張しましたが貴重な経験ができたと思います。副直研修は月に4回行っていますが、初めは何をしていいか全くわからず、一緒に当直している先生に頼りっぱなしの状態でしたが、少しずつ自分でできることが増え、少しは成長していることを実感できています。

研修以外においては、共通の趣味を持った同僚とリフレッシュできる時間を共有したり、地域の祭りやバレーのレクリエーションなど仕事以外のイベントもあり楽しく過ごすことができた1年でした。

来年は新たに後輩となる研修医が入ってきます。後輩ができると教える立場となり、不安もありますが、日々精進して残り1年の研修生活をより一層充実できればと思います。

【1年を振り返って】

初期臨床研修医（平成31年）盛満 真人

国家試験合格と同時に、悶々とした気持ちが一気に晴れ開放感に浸るのもつかの間、入職への準備が始まりました。あれから早一年が経とうとしています。「これからようやく医師としての一歩が踏み出せる」という希望と喜び、医師免許は取得したものの「自分にこの仕事をうまくこなしていくことができるのか」という不安。むろん後者の方が圧倒的に私の感情の多くを占めていました。しかし、その思いとは裏腹に、学生気分が抜けきらずに社会人としての自覚が足らず、周りの方々に迷惑をかけてしまうこともありました。多くの注意を受け自分の甘さを猛省すると共に病院という組織で活動する上で報・連・相の重要性を再認識しました。



当院では、入職後すぐに医師としての仕事が始まるわけではなく、多職種新入職者オリエンテーションが2週間設けられており、新人同士時間を共にすることで一体感が生まれました。当院のオリエンテーションで特徴的なことは、社会人としてのマナーを学ぶ機会や多職種の業務を経験する機会が設けられていることです。ベッドメイキングなどの看護業務を体験することで多職種の方々の仕事への理解も深まりました。

実際の研修についてですが、外科から始まり、現在までに麻酔科、循環器内科、腎臓内科、内科を研修しました。当院では毎週木曜日に研修医が上級医の指導の下、救急搬送患者の初期対応を行うこと

になっています。一年を通じて初期対応を学ぶことが出来ます。軽症患者から重症外傷、時には目の前で命を落としてしまう症例まで経験しました。学生の時に机上で学んでいたことが実際に患者を前にしたときに頭に浮かんでこなかったことが多くありました。鑑別すべき疾患が浮かんで来ないと身体診察、検査オーダー、看護師への指示等実際に行動に移すことが難しく知識の無さや勉強不足を痛感しました。限られた症例の中で学ぶべき事を抽出していくことの重要性を感じます。

まもなく2年目の研修を迎えようとしています。同時に後輩が入ってくる時期でもあります。自分が感じていたような緊張感をもって研修をスタートすることになるでしょう。諸先輩方のように、先輩として緊張をほぐしていくことも必要でしょうが、自分の失敗談を伝えつつ、ほどよい緊張感を共に持つことも大事だと思います。

一方で、2年目になると業務等に慣れてきて気の緩みも生じてくることも危惧されます。自信を持って業務を行うことは必要ではありますが、傲慢な態度でスタッフや患者に接することはあってはならないことだと思います。日々学ぶことは数え切れないほど、まだ膨大な量があります。研修中に関わってくださる上級医の先生方、看護師、薬剤師等スタッフの方々への尊敬、感謝の気持ちを持ちつつ謙虚な姿勢を忘れずに研修に臨みたいと思います。

【大牟田市立病院での初期臨床研修】

初期臨床研修医（令和2年）照屋 快斗

大牟田市立病院での研修医としての生活が始まって二ヶ月がたちました。一言で言うと、大変充実した研修生活です。

現在、麻酔科での研修をしていますが気管挿管、ルート確保、脊髄くも膜下麻酔、採血など様々な手技をたくさん学んでいます。はじめの頃は失敗ばかりでしたが、指導医の先生方やコ・メディカルの方々に優しく教えていただきながら一日一日、成功する確率が少しずつですが上がってきているのを実感できています。また、手技だけでなく、薬品の扱い方や人工呼吸器の設定の仕方、麻酔の導入、維持覚醒、術前の評価、患者さんへの病状説明の仕方、その他手術部のスタッフの一員としての細々した業務等々、数え切れないくら



い、毎日新しく覚えることがあり、それを一つずつ熟しています。時には忘れてしまうこともありますが、そのたびにスタッフの方々から優しすぎるくらい優しく注意していただき、反省を活かしながら成長している実感があります。

また、副直は月に4回あり、毎週木曜日は救急科研修として救急車の初期対応を研修医が行っており、一年を通して救急の現場を経験することができます。まだまだ経験が浅く、どこをどのように診察するのか悩むことばかりですが、2年目研修医の先生や指導医の先生方に教えて頂きながら診察を行っています。

麻酔科でも、救急対応でも、自分で出来ることが増え、それによって任される範囲が広がるたびに、この職場に貢献できているということを実感し、そのことに喜びを感じています。

また、上級医によるレクチャーもあり、各診療科の先生方から研修医が学ぶべき知識や技術を熱心に暖かく指導いただいています。

医局全体、病院全体もアットホームで心地よい雰囲気です。今年は、新型コロナウイルスの影響で、歓迎会や親睦会などは開催されてはいませんが、院内ですれ違うたびに暖かく声をかけていただき、研修医を大切にいただいていると感じます。

当院の研修に少しでも興味がある方は、是非一度見学をおすすめします。

【大牟田市立病院での初期臨床研修】

初期臨床研修医（令和2年）吉田 夏希

最初に約2週間のオリエンテーションがあり、現在、外科での研修が始まってから1週間が過ぎました。研修先が決まってから引っ越し、オリエンテーションがあつという間に過ぎました。大牟田市立病院には同期の研修医は2名ですが、オリエンテーションにおいて看護師さんをはじめとする様々な職種の方々と関わる機会がありました。今年は新型コロナウイルスの影響もあり他職種を含めた方々と食事に行ったりすることができないことが少し残念ですが、現在、研修している外科の回診などの際に他職種の同期の方と会うこともあり、ほっとするうれしい時間でもあります。

まだ各科での研修が始まって1週間ですが、現在は外科で回診の際の処置や手術に参加させていただいています。私が体力がないために手術自体は得意とはいえませんが、先生方の配慮でなんとか過ごさせていただいています。



また、毎週木曜日は救急研修の日でもあります。診断がついてい

ない患者さんを最初から診療することはとても難しいと痛感しています。この木曜日と月4回の副直では、指導医の先生方からどのような病気を考えるのか、そのためにすべき検査・治療などを教えていただいています。

大牟田市立病院では、研修医に対するレクチャー等も多く開催されます。毎週土曜日の午前中には、研修医を対象としたモーニングカンファレンスがあります。他にも講習会等にも積極的に参加させていただいています。

まだ、電子カルテの使い方等もわからない状態ですが、まずは一ヶ月、二ヶ月と少しずつ役に立てるよう頑張っていきたいです。



医局全体で、臨床研修医をサポートします！

9. 研修中の行事例

4月には同期入職者とともにオリエンテーション



看護部の研修にも参加します。



4月下旬、診療科での研修開始！



夏には、ビーチバレー大会や夏祭りに参加し、



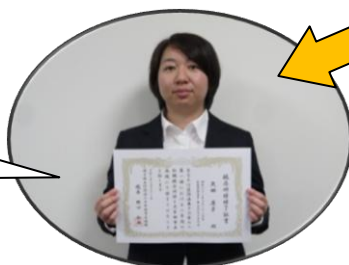
冬には、キャンドルサービスや互助会のパーティもあります。



学会や研修医フェアなど、院外活動もあります。



そして、めでたく、研修修了！



10. 募集要項と処遇

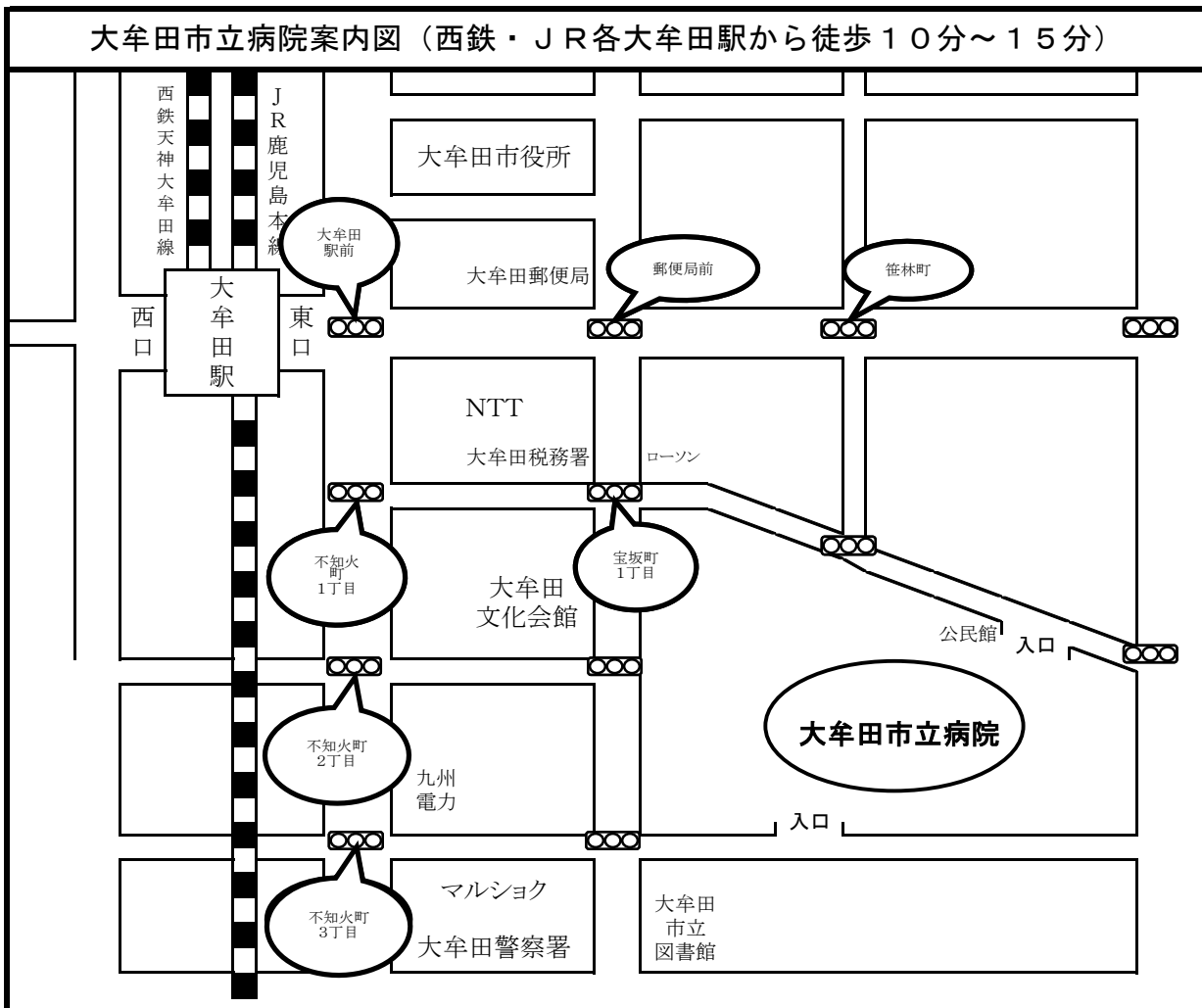
<募集要項>

| | |
|-------|--|
| 応募資格 | 令和3年度医師免許取得予定者及び平成16年度以降に医師免許を取得した者で、令和2年度医師臨床研修マッチングに参加登録している者。 なお、地域枠の学生の方は、当院での臨床研修が認められるかご確認の上、応募ください。 |
| 募集人数 | 2名 |
| 採用予定日 | 令和3年4月1日 |
| 研修期間 | 2年間 |
| 選考方法 | 面接、小論文 |
| 出願書類 | 履歴書(市販の書式で可)、成績証明書、共用試験医学系 CBT 個人別成績表(写)、卒業見込証明書または卒業証明書 |
| 選考日 | 令和2年7月下旬～令和2年9月中旬の期間で応募者と調整の上、決定 |
| 出願締切日 | 令和2年8月31日(月)(予定)※消印有効 出願書類送付および問合せ先: 人事課 〒836-8567 福岡県大牟田市宝坂町2丁目19番1号 TEL 0944-53-1061 E-mail somu@ghp.omuta.fukuoka.jp * 病院見学は随時実施しております。遠慮なくご相談ください。 |

<処遇>

| | |
|----------|--|
| 身分 | 研修医(常勤) |
| 給与 | 1年次 301,500円(月額税込) 2年次 312,600円(月額税込) * 諸手当別途支給あり 副直手当(15,000円/回)、通勤手当(月額上限 55,000円)、 住居手当(月額上限 27,000円)、時間外勤務手当 |
| 賞与 | あり(令和元年度実績 年間 3.95月分) <モデル年収(給与+賞与+副直手当)> 1年次…5,210,000円、2年次…5,700,000円 ※副直手当(月4回で計算した場合) |
| 勤務時間 | 午前8時30分～午後5時15分 * 指導医の下で、週1回程度の当直(副直)あり |
| 休暇 | 土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他各種休暇あり(年次有給休暇、夏季休暇、服喪休暇等) |
| 社会保険 | 各種社会保険加入(福岡県市町村職員共済組合、雇用保険、厚生年金、労災保険) |
| 健康管理 | 採用時健診、定期健診、歯科健診など |
| 宿舎 | あり(3LDK…月額 10,500円、シェアハウス…月額 3,000円～4,000円、水道光熱費別途、駐車場あり) ※宿舎の空室状況により、入居できない場合は、ご相談させていただきます。 |
| 医師賠償責任保険 | 病院で包括加入 |
| 研修支援 | ・学会、研究会参加: 参加費用および旅費支給制度あり(当院規定による支給) ・資格取得: 当院にてICLSコースおよび緩和ケア研修会受講可能 ・図書室: 蔵書・雑誌タイトル多数、文献検索ツール・電子ジャーナル完備、24時間利用可能 ・研修医各自に机、棚、ロッカーあり ・仮眠室あり ・院内保育所あり |

11. アクセス



問合せ先 大牟田市立病院 人事課
 TEL 0944-53-1061 E-mail somu@ghp.omuta.fukuoka.jp
 〒836-8567 大牟田市宝坂町2丁目19番地1

